

平成 21 年 5 月 15 日現在

研究種目：基盤研究 (C)
 研究期間：2006～2008
 課題番号：18520081
 研究課題名（和文） ティントレット派素描のカタログ化：英国素描作品総目録の作成
 研究課題名（英文） Drawings by the School of Tintoretto:
 A Catalogue of the Works in the British Collections
 研究代表者
 越川 倫明 (KOSHIKAWA MICHIAKI)
 東京芸術大学・美術学部・准教授
 研究者番号：60178259

研究成果の概要：

本研究は、イタリア・ルネサンス期にヴェネツィアで活躍した画家ヤコポ・ティントレット (1519—1594) およびその工房を対象に、現在知られている全素描作品をカタログ化する計画の一部として、英国所蔵の作品をデータベース化するものである。成果として、英国所蔵の素描 164 点のデータを整理し、ヤコポとその工房の素描を初めて一元的にカタログ化することができた。また、これらの作品に含まれるいくつかの問題（作品の年代づけ、作者判定など）について新発見を得ることができた。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006 年度	1,400,000		1,400,000
2007 年度	800,000	240,000	1,040,000
2008 年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	2,800,000	420,000	3,220,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学、美学・美術史

キーワード：ティントレット、素描、マニエリスム、ヴェネツィア絵画

1. 研究開始当初の背景

研究開始の時点で、ティントレット素描あるいはティントレット派素描のカタログ化の試みはふたつあった。第一に、ハンス・ティ

ーツェとエリカ・ティーツェ=コンラートによる『ヴェネツィア画家の素描』(1944)、第二に、パオラ・ロッシによる『ヤコポ・ティントレットの素描』(1975)である。前者はテ

イントレット派全体を扱っており、きわめて重要な基礎研究であるが、刊行からすでに60年以上を経て、その情報は現在の研究状況に照らして根本的な改訂を必要としていた。後者はより新しい情報に基づく著作であるが、対象作品は著者がヤコポ・ティントレットの真筆と判断したものに限定されており、息子ドメニコ・ティントレットの重要な作品グループをはじめ、多くの周辺作品は議論の対象外に置かれている。従って、最新の研究に基づくティントレット派全般を対象としたカタログ化の試みはいまだ行なわれていなかった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、ティントレット派による現存素描作品を網羅した総目録を作成することを最終的な目標とし、今回の研究課題においては英国の諸コレクションに所蔵される素描をカタログ化することを目的とした。現在知られるティントレット派素描は450～500点前後の数にのぼり、そのうち約3分の1程度が英国のコレクションに属している。主たる所蔵先は大英博物館、ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館、フィッツウィリアム美術館、アシュモリアン美術館、クライスト・チャーチ絵画館などである。本研究は、これらの英国所蔵作品について可能な限り実見調査を行ない、作者推定と年代推定の検討を経て、詳細なデータと考察を付したカタログを実際に作成するものである。

3. 研究の方法

本研究は素描作品のカタログ化を目指すものであるため、基本的研究方法は概略以下の手順で行なわれた。

- (1) カタログの入力フォーマットの検討（市販のデータベース・ソフトを使用）
- (2) 作品写真、あるいはデジタル画像の収集
- (3) 関連データ、特に文献データの把握と収集
- (4) 実見調査および質的・技法的検討
- (5) 関連作品および年代推定に関する検討
- (6) カタログ項目の入力（文字データおよび画像データ）

カタログのデータは国際的通用性を考慮してすべて英文で入力した。

4. 研究成果

(1) 基本的成果（カタログ作成）

本研究により、現在英国の諸コレクション（ケンブリッジ、フィッツウィリアム美術館／エディンバラ、スコットランド・ナショナル・ギャラリー／ロンドン、大英博物館／ロンドン、ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館／オックスフォード、アシュモリアン美術館／オックスフォード、クライスト・チャーチ絵画館／ウィンザー、英国王室図書館）に所蔵される計164点のティントレット派素描のデータが画像を含めてデジタル・データとしてカタログ化された。これにより、これまで部分的に文献に言及されてきたこれらの作品が、初めて画像とともに一元的に参照可能となった。デジタル形式でカタログ化したことにより、検索・参照を容易に行なうことができ、同一モチーフを描いた作品や、同一の制作計画に関連した作品をグループ化して参照することも容易にできるようになった。

とはいえ、本研究成果はあくまでも、世界各地に現存する約450点のティントレット派素描をすべてカタログ化する作業の一部であり、その第一段階として位置づけられる。

今後の展望として、第二に大きなグループをなすイタリア所蔵の素描作品、さらに、その他の国に所蔵される作品群を同一の形式で整理し、最終的に現在知られるティントレット派素描の全作品カタログを完成させることが今後の具体的課題である。

(2) ティントレット派素描に関する個別の新知見

作品の整理・検討の過程で、いくつかの点で新たな知見を得ることができた。第一に、大英博物館に所蔵されるドメニコ・ティントレットの素描群の検討を通じて、これまで非常にあいまいに認識されてきた同画家の素描様式の編年的展開について、新たな指標を得ることができた。この成果は、論文「ドメニコ・ティントレットの油彩素描—編年上の指標に関する基礎考察」として執筆し、2010年初頭に刊行予定である。

第二に、素描作品の検討の過程で、ヴェローナ出身の版画家ヤコポ・カラーリオのエロティック版画がティントレット工房の形態のレパートリーの重要な着想源になっていたことを発見できた。この成果は、2008年3月に国立西洋美術館で開催された国際シンポジウム『ルネサンスのエロティック美術』にてイタリア語で口頭発表 (Echi delle stampe erotiche di Jacopo Caraglio nella pittura veneziana) し、同シンポジウムの欧文報告書「L'arte Erotica del Rinascimento. Atti del colloquio internazionale」に掲載して刊行した (2009年3月)。

第三に、ティントレット工房で繰り返し描かれた小型の彫刻モデルのうち、「アトラス像」と呼ばれる一群の素描につき検討し、そのモデルが現在ロンドンのヴィクトリア・アンド・アルバート美術館に所蔵される小型の

彫像にほかならないことを発見できた。この新知見は、若干の付随的情報の確認の必要があるため、いまだ執筆を完了していないが、2009年中に執筆、2010年には刊行を予定している。

第四に、2008年に行なったフィレンツェのウフィツィ美術館に所蔵されるティントレット派素描の調査により、これまでパオラ・ロッシによってヤコポの作品から除外されてきた数点の作品が、実際には周辺作ではなくヤコポ自身の作品とみなし得る、との知見を得ることができた。この問題は、いまだ論文化するの時期尚早であるが、全体計画の次の段階である「イタリア所蔵作品のカタログ化」において具体的なかたちにしていく予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 5 件)

- ① 越川倫明「ドメニコ・ティントレットの油彩素描—編年上の指標に関する基礎考察—」『越宏一先生退任記念論文集』所収、中央公論美術出版、2010.3 (刊行予定) (査読なし)
- ② Michiaki Koshikawa, “Echi delle stampe erotiche di Jacopo Caraglio nella pittura veneziana,” in M. Koshikawa (ed.), *L'arte erotica del Rinascimento. Atti del colloquio internazionale*, Tokyo 2008, The National Museum of Western Art, Tokyo/The Yomiuri Shimbun, Tokyo, 2009.3, pp. 71-80 (査読なし)
- ③ 越川倫明「《悲しみの聖母》をめぐって」、『バチカンの名宝とキリシタン文化』展カタログ所収、長崎歴史文化博物館、2008.11, pp. 170-174 (査読なし)

- ④ Michiaki Koshikawa, “Another *Last Supper* Panel Attributed to the Young El Greco,” in N. Hadjinicolaou (ed.), *El Greco’s Studio: Proceedings of the International Symposium*, Crete University Press, Iraklion, 2007, pp. 51-65 (査読あり)
- ⑤ 越川倫明 「デスクトップ・ラファエル」、『イタリア・ルネサンスの版画—ルネサンス美術を広めたニュー・メディア』カタログ所収、国立西洋美術館、2007. 3、pp. 36-40 (和文)、272-274 (英文) (査読なし)

[学会発表] (計 2 件)

- ① Michiaki Koshikawa, “Echi delle stampe erotiche di Jacopo Caraglio nella pittura veneziana” (イタリア語)、国際シンポジウム「ルネサンスのエロティック美術—図像と機能」(主催: 国立西洋美術館、フィレンツェ美術館特別監督局、読売新聞社)、国立西洋美術館、2008. 3. 29
- ② 越川倫明 「エル・グレコ初期作品の研究の現状—イラクリオン歴史博物館所蔵《キリストの洗礼》を中心に」、スペイン・ラテンアメリカ美術史研究会主催「エル・グレコ・コロキウム」、早稲田大学、2007. 12. 08

[図書] (計 2 件)

- ① Michiaki Koshikawa (ed.), *L’arte erotica del Rinascimento. Atti del colloquio internazionale*, Tokyo 2008 (国際シンポジウム報告書、欧文), The National Museum of Western Art, Tokyo/The Yomiuri Shimbun, Tokyo, 2009. 3, 100p.
- ② 渡辺晋輔、越川倫明、吉澤京子ほか『イタリア・ルネサンスの版画—ルネサンス美術を広めたニュー・メディア』展カタログ、国立西洋美術館、2007. 3、278p.

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]

- ① チャールズ・ニコル『レオナルド・ダ・ヴィンチの生涯—飛翔する精神の軌跡』(越川倫明、松浦弘明ほか訳)、白水社、2009. 1、767p. (翻訳書)
- ② 越川倫明 「エル・グレコ初期作品の研究の現状—イラクリオン歴史博物館所蔵《キリストの洗礼》を中心に」(2007年度研究会発表要旨)、『スペイン・ラテンアメリカ美術史研究』、9号、2008. 4、p. 23 (研究発表要旨)
- ③ 越川倫明 「マルカントニオ・ライモンディとニュー・メディア—イタリア・ルネサンス版画展に寄せて」、『版画芸術』、135号、2007. 3、pp. 96-99 (展覧会紹介)
- ④ 越川倫明 「展覧会評：ベッリーニ、ジョルジョーネ、ティツィアーノ—ヴェネツィア絵画のルネサンス」、*Aspects of Problems in Western Art History* (東京芸術大学西洋美術史研究室紀要) vol. 7 (2006), pp. 80-82 (展覧会評)
- ⑤ 越川倫明 「書評：W.R. Rearick, *Il disegno veneziano del Cinquecento* (2001)」、*Aspects of Problems in Western Art History* (東京芸術大学西洋美術史研究室紀要) vol. 7 (2006), pp. 72-74 (書評)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

越川 倫明 (KOSHIKAWA MICHIAKI)
東京芸術大学・美術学部・准教授
研究者番号：60178259

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者